

# News Letter

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184 <https://www.kokudo.or.jp>Japan Geographic Data Center  
公益財団法人  
国土地理協会

## 2024年の地名変更情報 あんな地名 こんな地名

2024年も、各地で興味深い地名の新設がありました。この1年間の新設地名について振り返ります。

### 宮城県黒川郡大和町「しあわせの杜」

この地区は、大和町を含む仙台北部地域における新規立地企業の従業者とその家族の移住先となっており、主に住宅団地として整備を進めてきました。この地名の由来については「住んでもらう方のしあわせを願いたい」という思い、周辺にある既存字名「杜の丘」「杜乃橋」にあやかりたいという声や、既に近隣住民には「しあわせの杜」の愛称での認識が高いなどの意見を踏まえて、最終的に「しあわせの杜」と決定されたようです。緑豊かで利便性が高く、子育てしやすい安心なまちとして今後注目される地域になりそうです。

### 栃木県さくら市「きぬの里」

きぬの里の旧地名の一つである「上阿久津」は、鬼怒川の舟運の拠点でした。上阿久津には各街道を通して集まった会津藩、白河藩などの廻米（船で産地から消費地へ輸送される米）や特産物を運ぶために大いに栄えた「阿久津河岸」があったといえます。米のほかに、この阿久津河岸や鬼怒川の地域は県内有数の絹の生産地であったことから、絹のような光沢を放つ質の高い街というイメージが地名として住民に浸透しやすいとし、最終的に区画整理地内の住民向けアンケートにより「きぬの里」に決まりました。今ではニュータウンなども開発され、住みやすい街として発展が期待されています。

### 埼玉県日高市「武蔵高萩」

1993年（平成5年）から進められてきた武蔵高萩駅北土地区画整理事業により、昨年新設された町名です。町の名前は駅名からきているとされ、その武蔵高萩駅（JR川越線）は、1940年（昭和15年）7月に当時の埼玉県入間郡高萩村に開業しました。「高萩駅」と命名したいところでしたが、1897年（明治30年）に「高萩駅」（茨城県高萩市、JR常磐線）が既に開業していたため、旧鉄道省が重複を避けるため、「武蔵」を付けて「武蔵高萩」となったとされています。駅開業当時は、陸軍航空士官学校（高萩飛行場）への行幸の中継点として機能していたため、旧駅舎には立派な貴賓室が設けられていました。現在の駅舎にも随所に重厚なデザインが残っています。

### 神奈川県厚木市「森の里紅葉台」

森の里東地区は、現在整備中の国道246号バイパス（厚木秦野道路）森の里インターチェンジ（仮称）から約1kmの位置にあり、交通利便性の向上が見込まれるエリアで、産業用地の開発を目的に2014年（平成26年）から開発事業を進めていました。「紅葉」は市の木であり、区域内に紅葉山という小字名も存在します。この「紅葉」に、区画整理によって造成され平らになった土地を示す「台」を付け「紅葉台」とし、繁栄の礎となることを意味しているそうです。

## 新潟県新潟市西区「こしん りゅうつう ひがし小新流通東」

北陸自動車道に直結する新潟西バイパスの「こしん小新インターチェンジ」に近接し、高速・広域交通網の利便が良く、また、隣接して新潟流通業務団地が立地しており、物流の拠点として誕生した地名です。道路・公園等の公共施設整備が行われ、業務系施設を中心とした建築物の整備も進められてきました。新潟市では、陸路・航路・空路が全国に伸びている交通のアクセスを強みとして、国内のみならず海外にも広く高度な都市機能を発展させています。

## 愛知県名古屋市中川区「せん のん じ千音寺」

昨年、名古屋市中川区の一部で町名・町界整理が実施され、「千音寺」という町名ができました。旧地名である「富田町大字千音寺」には、747年(天平19年) しやうむ てん のう ちやくがん じ聖武天皇の勅願寺(時の天皇の発願により国家鎮護などを祈願して創建された寺のこと)として千手観音寺が創建されたと言われています。「千音寺」という地名は、この千手観音寺が由来とされていますが、諸説あるようです。

## 岡山県美作市「みま さか みらい美来」

2025年(令和7年)で市制20周年を迎える美作市の新庁舎や、防災公園が整備されるエリアに新しい大字名「美来」が昨年誕生しました。市内の小学生・中学生等を対象にした投票で決まったそうです。美作市では、未来の主役となる子供たちが選んだこの町名が、将来のまちづくりの元になることを期待して、魅力あるまちづくりを進めているようです。

## 福岡県糸島市「いと しま ふくよし福吉」

昨年の住居表示で「福吉」が誕生しました。糸島郡にかつて「福吉村」があり、1889年(明治22年)に しかか鹿家村と吉井村、福井村の3村が合併した際、その中心だった福井村と吉井村の頭文字を取って命名されていました。そのころから「福吉」という地名が地元には定着していたようです。福吉地区は、福岡県の最西端で佐賀県唐津市と隣接しており、福岡市の中心部から電車でも車でも一時間程度の距離にあります。交通利便性が高く、山と海に囲まれた自然豊かな地域で特に観光に力を入れています。

## 鹿児島県薩摩川内市「さつ ま せん だいサーキュラーパーク」

薩摩川内市が目指す「サーキュラー都市・薩摩川内市」の実現のため、2022年(令和4年)に廃止された川内火力発電所の跡地を活用して誕生した町です。産官学が連携し、循環経済(サーキュラーエコノミー)と脱炭素化の推進によって持続可能な社会を目指しており、「産」の中心であるサーキュラーパーク九州(株)では、「From LEGACY to the FUTURE」をコンセプトに2030年度の構想実現に向けて事業を推進しています。

### 第43回 地図地理検定のご案内

主催(一財)日本地図センター、(公財)国土地理協会

- (1) 試験日 : 2025(令和7)年6月22日(日) 予定
- (2) 試験時間/問題数  
地図地理検定(基礎) : 13:30~14:20・全問択一式、100点満点  
地図地理検定(専門) : 15:00~16:00・択一式15問、記述式9問、100点満点
- (3) 実施都市 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡
- (4) 受検資格 どなたでも受検できます。年齢等、一切の制限はございません。

前回の問題は  
ココでチェック!

地図地理検定

検索

詳しくは地図地理検定ホームページ (<https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuken/>) をご覧ください。

問 次の図は、江戸時代に作成されたと考えられている温泉番付で、現在でも有名な温泉地が記載されています。右下の表は、いくつかの県の観光に関する情報をまとめたもので、表中のア～ウは大分県、千葉県、栃木県のいずれかです。県名とア～ウとの正しい組み合わせを、後の①～⑥のうちから1つ選びなさい。



	温泉湧出量 (L/分)	温泉地にある宿泊施設数 (軒)	延べ宿泊利用人員 (人)	ゴルフ場 (件)	観光農林業 (件)	観光漁業 (件)
ア	298,416	849	3,325,643	22	32	9
イ	61,284	419	2,384,904	119	36	25
兵庫県	48,649	380	3,024,261	151	36	25
岡山県	21,915	90	453,093	40	55	14
ウ	13,429	163	2,080,544	160	102	12

温泉湧出量と宿泊施設数と延べ宿泊利用人員は2020年度、その他は2022年環境省自然環境局資料および「数字でみる観光」により作成

	①	②	③	④	⑤	⑥
大分県	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
千葉県	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
栃木県	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

『諸国温泉効能鑑』（東京大学総合図書館所蔵）

【答え】②

【解説】図から、東の方大関が群馬県の草津温泉、西の方大関が兵庫県の有馬温泉であることが読み取れます。この有馬温泉は、豊臣秀吉や伊能忠敬、福沢諭吉も入湯したといわれています。延べ宿泊利用人員が多い県は、兵庫県のような大都市圏や宿泊施設数が多い県が当てはまります。温泉湧出量がかもとも多いアが、浜湯温泉や別府温泉などがある大分県です。栃木県の温泉としては、東の方關の那須温泉をはじめ、日光湯元温泉(温泉番付では中禅寺の湯と記載)や塩原温泉、図にはありませんが現在でも有名な鬼怒川温泉などがあります。また、内陸県でありながら、河川での観光漁業がみられるのも特徴で、アが栃木県です。千葉県は東京からのアクセスが便利です。市原市など工業地帯が多く、県全体の工業地帯の数が日本一です。また、園芸農業がさかんです。アをはいじめると観光農林業が多いため、観光農林業が多いためです。

# 日本列島 離島巡り

今回は東京都大島町「伊  
ず おおしま  
豆大島」をご紹介します。

伊豆大島は東京から約120km南の洋上に浮かぶ伊豆諸島最大の島です。富士箱根伊豆国立公園に属し、島の約97%が自然公園法により保護されています。人と大地と自然のつながりを楽しみながら学べる島として日本ジオパークにも認定されています。東京からの所要時間は、竹芝客船ターミナルから高速ジェット船で最短1時間45分、伊東からなら最短35分です。



三原山カルデラ

約8,000年前より人が暮らしていたと言われる伊豆大島ですが、まず思い浮かぶのは三原山でしょう。島の中央部にそびえる標高758mの活火山で、1986年(昭和61年)に噴火した際は、全島民が1か月にわたって島外避難しています。



裏砂漠

三原山の東側一帯には、日本唯一の砂漠といわれる「裏砂漠」が広がっています。国土地理院が発行する地図に、日本で「砂漠」と表記されているのは伊豆大島の裏砂漠のみです。地表を黒い火山岩(スコリア)で覆われた裏砂漠周辺は、特別保護地区として車両の乗り入れが禁止となっ

ており、自然環境や生態系が保護されています。三原山の度重なる噴火によって降り注いだマグマのしぶきが大地を焼き、一面黒い世界となったといわれますが、噴火後も風が強く吹きぬけるため植物が定着しにくく、砂漠的な光景が保たれています。四輪バギーで走るツアーもあります。



地層大切断面

島内南西部都道沿いの地層大切断面に見られる火砕物層は、約2万年間に堆積した火山岩、火山灰からなる地層で、島内南西部の幹線道路(大島一周道路)から見る事ができます。この火山噴出物による地層は高さ約24メートル、長さ630メートルほどで、2万年前から現在まで100回以上の噴火活動があったことを証明しています。

三原山には絶景のトレッキングコースもあります。スタート地点となる「三原山頂口」まではバスがありますが、駐車場も整備され、レンタカーでも行くことができます。「山頂遊歩道(舗装道)」→「カルデラ周廻線火口一周コース(砂利道)」→「裏砂漠線(砂利道)」の総距離7.9km、所要時間155分のコースとのことです。

ニュースレター等に関するお問い合わせは

公益財団法人 国土地理協会 〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町3番1号

TEL 03-5210-2181 FAX 03-5210-2184

URL <https://www.kokudo.or.jp>